

## 入野本村地区・逃げトレ避難訓練

入野本村地区で7月9日(火)、津波避難訓練アプリ「逃げトレ」を使った避難訓練が大方高校と町社会福祉協議会の協力のもと行われました。

同アプリは京都大学防災研究所が開発し、津波の動きと自分の行動をスマートフォンで画面上で確認しながら避難訓練ができるもの。大方改良の開通後、避難路が変わることに不安を持つ同地区の住民から声が上がりました。

参加者は4カ所に分かれ、生徒らは重りや耳栓・メガネなど、高齢者疑似体験ができる器具をつけ徒歩や車椅子で避難訓練を行いました。

24日(水)には、住民らを対象に生徒らが同訓練の結果を動画などを交えながら発表しました。その後、住民らで今後の訓練について



避難訓練の様子

の話し合いが行われました。参加者は、「いろいろな場面を想定しておく必要がある」と話しました。

## オリジナルHUG訓練

7月10日(水)、あったかふれあいセンターにしきの広場で、防災ゲーム「HUG」を使った福祉避難勉強会が行われ、大方高校の生徒やNPO法人しいのみと町社会福祉協議会の職員などが参加しました。

HUGとは、「避難所運営ゲーム」の略称で、避難所に見立てた平面図に避難者の配置を考えたり、トランプにどう対応するかゲームを通じて考えるツールのことです。参加者は5つのグループに分かれ、

同所が災害時に高齢者や障がい者などの要配慮者向けの「福祉避難所」となることを想定し、ゲームが進められました。

参加者は、「初めて具体的に避難所への避難について考えられた。



HUGを行う参加者

いろいろな想定をし、皆で考えることが必要だと思つたと話しました。

## 佐賀中が遠地津波避難訓練

7月13日(土)、佐賀中学校で「保護者合同遠地津波避難訓練」が実施されました。

遠地津波とは、日本の沿岸600km以遠に発生した地震により生じる津波のことです。同訓練は、遠地津波を現実的に考慮し、メキシコのエヴァ・サマノ中学校と連携し2年前から行われています。今回は、メキシコでの地震発生から約20時間後に日本へ約3mの津波が押し寄せたという想定で行われ、前日にエヴァ・サマノ中で行われた地震避難訓練の様子などがビデオレターで紹介された後、佐賀中で津波避難訓練が行われました。

1年の高岡未来さんは、「訓練でできないことは本当に地震や津波が起きた



校舎の3階に避難する生徒ら

ときにもできなれないと思ふので、しっかりと頑張つて取り組むたい」と話しました。

## 津波伝承キャラバン

8月19日(月)・20日(火)の2日間、町内の4会場で「津波伝承キャラバン」が開催されました。

同取組は、今後、南海トラフ地震にともなう大津波が想定される地域を対象に、「東日本大震災の津波被害の経験を伝え、1人でも多くの人に助かってほしい」という思いから、岩手大学の広田純一教授と望月達也さんが実施し、語り部は岩手県大船渡市で被災した及川宗夫さんが務めました。

及川さんは、地震が起きた直後から津波が来るまでの状況や避難所での生活などをその時の心境などを交えながら、「命があれば何でもできる。避難訓練などを本気で繰り返し行い、準備してほしい」と話しました。



経験を語る及川さん

広田さんは、「教訓は次に活かされることで意味がある。岩手県は震災後、たくさんの援助を受けた。伝えることでお返しし、役立てられることがあれば嬉しい」と話しました。